

教科名（ 美術 ）

1 生徒の現状分析（授業の取り組み、定期考査、提出物等から見られる生徒の実態）

観 点	分 析 内 容
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・用具の正しい使い方や基本的な表現技法を学年に応じて身につけている。・興味を持って鑑賞に取り組むが、知識としての定着がなく定期考査の得点に結びつかない生徒がいる。・毎時間の作業目標とその都度の評価を組み合わせることで、集中力と制作スキルの向上があらわれている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・テーマの理解やイメージをふくらませて具体的な形にあらわすアイディアスケッチ等、作品に取り組む前の準備段階で集中力が切れる生徒がみられる。・多くの表現方法を知ることによって新たな発想や、その発想をさらに練った構想へと結びつける段階にある。・自分自身の作品を大切に制作することで、友だちの作品への見方や共感を深めることを目指している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・授業規律を守り、落ち着いて話を聞き、制作に取り組めるようになっている。・8割の生徒が、授業に向けた準備や提出期日を守るようになっている。・数時間先の目標設定では本時の課題に向けた集中力が鈍る場合が多い。

2 指導方法の課題分析

- (1) 授業規律をいかに確立させるか。そのための学習環境の整備。
- (2) 学習意欲喚起のための導入の工夫。
- (3) 目標となる参考作品の準備と、制作に必要な用具や描画材料の選択・準備。
- (4) 鑑賞において各自の思いを伝え合う手段についての検討。

3 授業改善に向けての方策

- (1) 授業に不要な機材はすべて準備室に片付け、広く明るく清潔な美術室を維持する。
- (2) 生徒の生活に密着した要素や学校行事や他教科との連携で、題材に必然性を持たせる。
- (3) テーマの理解から作品制作まで、連続した集中力を維持するための参考作品を準備する。
- (4) 個々の質問や問題点に対応できるよう、課題の意図に沿った制作準備過程のスケッチや下描きを数多く準備する。必要に応じて授業者が制作する。
- (5) 鑑賞における生徒同士の思いの共有方法として、文章を投影したり授業者が代弁したりするなど、場面により対応を試みる。
- (6) タブレットで参考となる画像を検索することで、アイディアスケッチの段階での作業を充実させる。
- (7) 毎時間の作業の目標を設定することで、集中力と作業効率を上げることを目指す。

4 その他

- (1) 作品制作は、クラス全員が同時に仕上がることは困難であるため、昼休みを活用する。
- (2) 導入・技術指導・鑑賞など、ほぼ全ての授業でICTを活用する。